



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 10

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 10. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 10: 14-19

ISSUE DATE:

1953-07-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186872>

RIGHT:

京都大学類属臨海実験所振興会

水族館月報

No. 10

1953. 6月(7月2日)

5月末から雨が降り続いて、晴天日は1週間に過ぎず、附近は農繁期であつて、入場者は梅雨枯れを示した。幸い、今までのところ、塩度の低下による被害はまだ水槽に現れていないが、拭いても拭いてもガラスは曇り、説明板のペンキは海水による銅板生地表面の腐蝕のため浮よつて剥げ、全く憂鬱になる。説明板は予備のものをラッカーに塗り換えて次々に書き直す事に決めた。悪天候のため漁もなく、従つて死んだ魚の補充がむづかしい。水槽にも梅雨枯れの感がある。

博物館前の芝生が踏み荒されて、このまゝでは維持困難なので、道路と芝生の間にコンクリートの境界を設けて芝生の再生を計ることにした。この広場からは今迄にヤシノ本、ヤシの根元を取巻いていたキミガヨラン、ベンチが取払われた。今後、振興会も独自の立場から周辺的美化を計画すると共に、香所山の今後に注目する必要がある。

博物館にも多くの人々が来るようになった。と共に内容充実の責任が痛感される。

寄る年波に、水槽の亀裂、鉛管の腐蝕などが頻発して、傷の手当に忙殺されている。一度起死回生の大手術が希望される。

◎ 6月の入場者数

水族館売上の概況

大人 2790

小人 131

団体 4260

} 計 7381 }

明光バス発売切符数 } 合計 11380
 大人 4145 } (累計 77955)
 小人 49 } 計 4194
 無料入場者..... 24 (累計 336)

◎ 6月の収入

(累計)

観覧券売上金 206,421.00 1484,402.00
 雑収入 2,979.00 81,162.00
 5月からの繰越し 4,0304.00

計 619,704.00

○ 雑収入の主内容 } 860.00 入場税奨励金
 } 2,054.00 電力料税払戻

◎ 6月の支出

一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	62,445.00	154,230.00	
光熱費	6,283.00	21,487.00	
消耗品費	1,915.00	9,258.00	
備品費	7,365.00	15,045.00	
修理費	16,796.00	49,911.00	
材料費	8,352.00	33,310.00	
厚生費	230.00	690.00	
旅費	—	120.00	
諸税公課	—	48,043.00	
雑費	110.00	355.00	
通信運搬費	1,311.00	3,398.00	
契約金	—	165,300.00	
合計	98,807.00	501,147.00	

水泳館設備改善費

項目	金額	累計	備考
便所建築工代	2380.00	168,080.00	

電話室設備	—	3,565.00	
花壇設置	—	6,460.00	
庭園設備	36,575.00	36,575.00	
合 計	39,955.00	214,680.00	

実験所改善費

費目別	金額	累計	備考
人件費	6,517.00	13,409.00	月給差額補助
印刷費	200,000.00	200,000.00	
備品費	45,000.00	123,100.00	純水装置1台
修理費	1,800.00	3,025.00	号宿舍室内修繕
特別費	—	—	
合 計	253,317.00	339,534.00	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	8,000.00	13,700.00	採集費を含む
備品費	—	21,180.00	
修理費	2,500.00	6,205.00	玄肉壁塗り
消耗品費	—	2,611.00	
旅費	—	240.00	
通信運搬費	—	40.00	
合 計	10,500.00	43,979.00	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
心入貯蓄資金	7,000.00		44,000.00	
賞与資金	7,000.00		44,000.00	
厚生資金	1,500.00		3,150.00	
災害時予備金	57,000.00		63,562.50	市営住宅金 4500-入金
会議費積立金	20,000.00		40,000.00	
水族館資料積立金	—		25,000.00	
特別予備金	32,600.00		247,420.00	
合 計	70,100.00		467,132.50	

支出合計

一般経費	98,807.00
水族館設備改善費	39,955.00
実験所改善費	253,317.00
博物館費	10,500.00
積立金	70,138.00

計 472,717.00

7月に繰越(146,987.00

◎ 6月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(8)	1	5	2
気温	20.5—24.8 22.4	20.3—24.9 22.9	23.2—25.2 24.2
水温	20.8—22.4 21.5	21.3—23.1 22.4	23.0—23.8 23.6

但({ 気温は南水槽室 で10時に測定
水温はNo.22水槽

◎ 5月～6月の魚

水もいよいよぬるんだ。5月6日、今迄すっかり姿を見せなかつたソラスマダイがノ匹No.26水槽に現れ出た。

5日附近で採れた小アジを500枚購入し、各水槽に分けて入れ、生餌としたが、見て美しく水槽の魚には喜ばれ(?)、好成績であつた。

水温が上昇してウミガメが活発になつていたが、11日朝No.24水槽中の2匹のオブリが共にカメに食はれてしまった。

3月以来小容器に入れて飼つていた磯の小動物の中、ツヒラムシ、ヌノイトマギはまだ生きている。

岡山県玉島に出来る水族館が紀南地方でカメを蒐集して、7月20日迄それらを預つて貰いたいとの話があつて、6月

16日(1匹), 19日(1匹), 21日(2匹), 24日(1匹)計5匹が持込まれている。ウミガメは当水族館でもなお数匹必要なのであるが、これは完全に出しぬかれてはつた。困った事はこれで各水槽は飽和状態に近く、肝心の水族館宛のカメが持込まれた時にスペースがない事である。何等かの具体策を考えて貰わねば困ると案じている。ところで水族館には6月16日(1匹), 23日(1匹), 27日(1匹)小型アオウミガメが持込まれた。いずれもNo.22水槽で元気にしている。

長い間、勤めてくれたアカアシガニも最後の1匹が6月12日に死亡した。コウイカは已に5月10日に死に絶えている。シカサゴは5月以降5匹が入っては死に、現在6月14日購入の1匹が生残っている。6月末になつてイシダイ(25日)エビスダイ(28日)が大々1匹死んだのは打撃であつた。たゞ今や、更つたものは4月以来のタイフンガザミ、メガネオラツパ、トラフカラツパ及びマツカサウオであらう。

死 亡 通 告

サザエ	5月18日, 6月14日
イセエビ(440枚のもの)	6月10日
・ (500枚のもの)	6月12日
マダコ	6月11日
ヒトエガイ	6月15日, 17日
ウチワエビ	6月30日 死絶した。

記 録

- ◎ 5月20日 白良浜で4貫300枚のソデイカが捕れ持込まれた。木箱にホルマリン漬とし、注文したガラス瓶の到着を待っている。

⑥ 6月27日 神大の磯採集の際、畑島で15cm長の大きな
クモガタウミウシ が採れた。これは 早♀ 交尾 産卵中で
あつた。

⑦ 追加 ミカドウミウシ 5月28日 四双島で採集され
たものがまだ生きている。

山田 隆